３月４日（火）　Ｗｉｅｎ

8：45　ホテル発
9：00　地下鉄Ｕ１号線　Praterstern　→　Stephansplatz
9：05　Kärntnerstraße を中心に旧市街見学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・①
9：40　Schwarzenbergplatz 見学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・②
9：50　トラム 71 号線　Schwarzenbergplatz　→　Zentralfriedhof
10：20　Zentralfriedhof（名誉区 32 Ａ・ユダヤ人墓地）見学・・・・・・・・・・・・・③
11：15　Ｓ６号線　Zentralfriedhof/1st Tor　→　Gumpendorfer Straße
　　地下鉄Ｕ６号線　Gumpendorfer Straße　→　Josefstädter Straße
12：05　Josefstadt 地区（８区）のトルコ人街見学（特に Brunnen gasse）・・・・・④

午後は各自自由行動
18：30　集合

① Kärntner Straßeを中心に，ウィーン旧市街

Kärntner Straße（ケルントナー通り）はウィーン三大高級ショッピング街のひとつである。１階や２階には高級品などを取り扱う店舗が立ち並び，３階以上は高級賃貸アパートとなっている。巡検で訪れた際には時間帯も早かったためにそれほど多くの人が行き交う様子は見られなかったが，夕方の自由時間に訪れた際には多くの観光客と見られる人々がショッピングを楽しんでいた。オーストリアでは看板にかけられる規制が厳しくないため，通りではさまざまな看板を目にし，それを楽しむこともできる。

また，通りでは「K.u.K」との表記を見かけることがあるが，これは「Kaiserlich und Königlich」の略であり，「オーストリア・ハンガリー二重帝国の」という意味を持っている。この略語を掲げている店は著名なカフェやコンディトライなど，かつての帝室御用達であった店である。こういった商店は観光化に対応できていると考えられるが，一方で文具店などの老舗は観光化やケルントナー通りの高級化に対応できず姿を消していく傾向にあるようだ。

ケルントナー通りから横道へ入りしばらく歩くと，道幅と建築物の大きさが変化する場所がある。大きな，整然とした建築物が立ち並んでいるのが1860年代以降に建てられた高級住宅街である。今回の巡検で歩いたSeiler stätteは高級住宅街とそれ以前の市街地，旧市街地との境界となっている。西側には細い路地や小さな建築物が密集した様子を見ることができる一方で，東側はまっすぐな道路が走り，整然と比較的規模の大きな建築物が立

ち並ぶ様子を見ることができる。

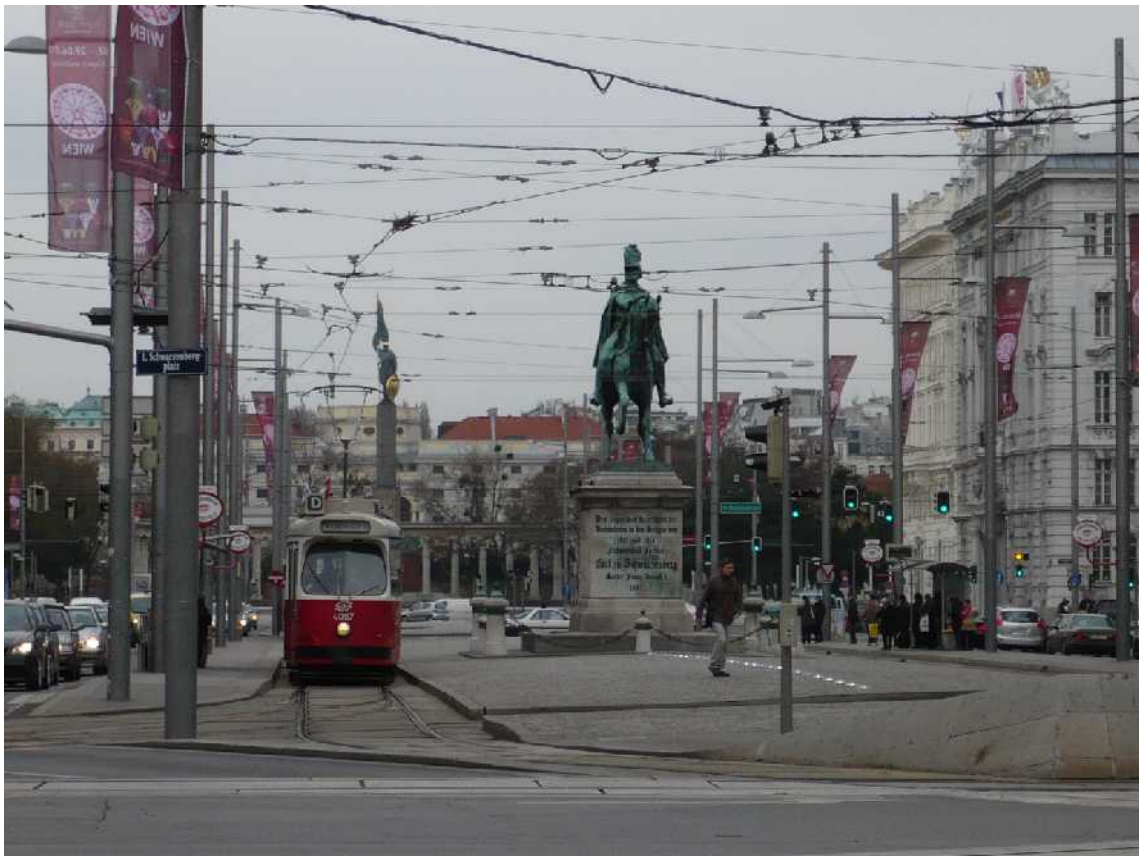
カフェ・ゲルストナー。1847 年創業のこの店の看板には「K．ｕ．K」の表記だけではなくハプスブルク家の紋章である双頭の鷲も描かれている。

奥に見えているのがアルベルティーナ広場。向かって左側が 19 世紀に建てられた高級住宅街，右側が工業化以前の市街地。道路拡張に対し古くからの建築物が対応しきれず，右側は建築物の壁が道路に対し直線になっていないことが分かる。

② Schwarzenbergplatz

旧市街を抜けてこの広場へたどりつくと，２つの像を見ることができる。北側にあるのがウィーン会議の立役者であるカール・フィリップの像である。この騎馬像の南側に，騎馬像よりも高く金色のヘルメットを被り，右手に旗を持った兵士の像が立っているが，これは1945年８月にソ連が建てた解放記念碑である。別名「赤の軍隊の記念碑」とも呼ばれているこの記念碑は初めてナチスやヒトラーに対する勝利を示した公式の記念碑となった。

この解放記念碑は，大戦後のウィーンがどのようであったかを現在に示す数少ない現存するモニュメントであるように感じられた。



③　Zentralfriedhof（名誉区 32 Ａ・ユダヤ人墓地）

シュヴァルツェンベルク広場からトラムを乗り継いで 40 分，ウィーン市街の南西部に Zentralfriedhof（中央墓地）がある。トラムの窓から見える景観が，リンク環状地区から遠ざかるにつれてコンクリートの無機質な建築物が増え，スーパーや衣料品店など生活感のあるように感じられる景観へなっていくのを観察することができた。市のはずれにあるこの墓地は，1874 年に都市計画の一環として造られたものである。

名誉区 32 Ａに一番近い「第２門」の大きな門柱には皇帝フランツ・ヨーゼフ２世の名とハプスブルク家の紋章が刻まれていた。

広大な敷地を持つこの墓地は，映画『第三の男』に登場した並木道もさることながらベート

ーヴェンなど著名な音楽家が埋葬されていることで観光客の注目を集めている。

並木道。

向かって左から，ベートーヴェンの墓碑，モーツァルトの記念碑，シューベルトの墓碑。

華やかで墓碑も巨大な名誉区３２Ａから歩いて 20 分以上経ったところにユダヤ人の墓地がある。中央墓地ではユダヤ人墓地，プロテスタントの墓地などが幾何学的に区画整理されているのが特徴であるが，写真のように芝生までもしっかりと管理されていた名誉区とは異なり，ユダヤ人墓地のあたりでは様々な植物があちこちから生えており，区画ごとの管理状態に差を感じさせられた。1920 年代から 30 年代にかけて亡くなったユダヤ人を埋葬したこの場所には今ではお参りにくるような人もいないためにこのような状態になっていると考えられる。「水晶の夜」をはじめとするユダヤ人への迫害によって墓石もまた引き倒

されたり破壊されたりと大きな損壊を受けた。長い間その状況が続いていたが，1990 年代，放置状態への苦情が寄せられたことによりオーストリアが国家事業としてユダヤ人墓地の整備を始めた。

ユダヤ人に関わる建築物等の特徴である半円アーチを用いた新しい墓石にはダビデの星が刻まれ，その下のプレートには名前・年齢・没年月日が記されている。場所によっては写真で示されているように整備が進められているが，まだ墓石が引き倒されたままの場所も多く見られた。ユダヤ人墓地が集中する一帯から正門へ向かうことができるが，正門へ続く広い直線道路上にあるのはユダヤ人の中でも富裕層であった人々の墓であり，爵位が書かれているものもいくつかあった。

正門へ向かう道の途中，形が崩れた石が無造作に積まれていた。それらは「第二次世界大戦の爆撃によって破壊され，もはや元の場所に戻すことができなくなった墓石である」と書かれていたが，実際に爆撃で破壊されたのかどうかは疑わしいと思われる。

HIER LIEGEN TEILE VON GRABSTEINEN
DIE BEI MEHREREN BOMBENABWÜRFEN
WÄHREND DES ZWEITEN WELTKRIEGES
BESCHÄDIGT WURDEN UND DEREN DAZ
GEHÖRIGEN GRABSTELLEN NICHT WIEDER
ERMITTELT WERDEN KONNTEN

④　Josefstadt 地区（８区）のトルコ人街

ウィーンの街には，19 世紀に整備されたリンクと呼ばれる環状道路の外側に，Gürtel（ギュルテル）という大きな環状道路が走っている。リンク周辺には高級なアパートなどが建てられたが，ギュルテルの周辺には安価な公営住宅が多く建てられた。現在この地区はトルコ人が集中する地区となっており，地価や物価なども関わってアフリカなどヨーロッパ外からの移民が集まる場所となっている。

商店街にもエスニック系の店舗が多く見られ，さらに Brunnengasse という通りでは市が認可した市場が開かれていた。市場での売り物としては食料品と衣類が目立っており，質が良いというわけではないが，その安さを期待して近隣に住む人々が買い物客として訪れているようだった。この通りでは改築中の建築物も目立った。ギュルテルがすぐ近くを通り，地下鉄で旧市街まで数分という立地の良さを生かした事業が進められているようである。その一環として，既存の状態が良いとはいえない建築物を取り壊し，新しく設備ある住宅への建て替えが進められているようだった。